

# せわやがトカラ情報

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号  
TEL 099-227-9771

南北 160 km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

## 8 月…村政座談会に参加して 十島村教育長 有村 孝一

桜島に噴火警戒レベル 4 (避難準備) が発表されています。鹿児島地方気象台は、昭和、南岳両火口の半径 3 km で大きな噴石の飛散や火砕流に厳重な警戒を呼び掛けています。「地震・カミナリ・火事・おやじ」昔から怖いものの代表で言われてきているものです。しかし、最近はその「火山」も加えなければならぬのではと思います。各地で思わぬ噴火が起こり大きな被害をもたらしているだけに、十分な警戒が必要です。

ましてや、わが村には、国内で 13 ある A ランクの該当火山に諏訪之瀬島、B ランクに中之島、C ランクに口之島があります。7 月から 8 月にかけて実施された村政座談会に出席し、改めてそのことを身近に感じましたので、とても他人事とは思えません。早く収まってほしいと願うばかりです。

村政座談会に 7 島全部に参加しました。どの島も熱心に話し合いがなされました。長時間にわたって、各島の抱える様々な課題等について、意見交換もなされました。私は、今回初めての参加でしたが、教育面のみならず、それ以外の事についても現地ですっきりと確認することができたのは、大変良かったと思います。

その中で、教育委員会と関連が深い事の一つに、子ども子育て支援拠点事業があります。住民課が担当していますが、小学校へのスムーズな接続ということからも、大変重要なことです。

4 月、宝島に「イマキラ園」が開設されましたが、少しずつ軌道にのってきていると聞いています。10 月には、中之島に開設が予定されています。このように、幼児教育の面が充実し、整備されてきますと、幼・小・中の連携がますます充実して、相互にプラスの効果をもたらすと思います。

「子どもは未来からの預かりもの」という言葉があります。そうであるならば、きちんと成長させて、その未来を輝くものとする義務が、私たちにはあるのではないのでしょうか。

一步一步ずつではありますが、また、新たな光が見え始めています。各島の抱える様々な課題等は、すぐに解決できるものばかりではありません。時間をかけ、予算措置をしていかななくてはならないものもあります。そのような中で、現地で直接住民の皆さんの声を聴くことができるというのが、村政座談会の良さだと思つづく思いました。この経験を、これからの教育行政に生かしていきたいと思つています。

## 少年の主張で「最優秀賞」受賞



8 月 3 日、鹿児島市の河頭中学校で行われた「第 37 回少年の主張鹿児島県大会」で、口之島中学校 1 年の永吉美悠さんが「最優秀賞」の栄冠に輝きました。永吉さんは、口之島診療所での職場体験から、自分の考え方が変わってきたところをわかりやすく説明しています。主張の内容といい、発表する態度といい、実に素晴らしいものでした。審査委員長からは、「着眼点がよく、身近な体験から感じたことを論理的にまとめていて、人を説得する力がありました。」と絶賛されました。九州大会はテープ審査だということですが、十島村の代表として、是非、全国大会までいってほしいものです。

**輝** 第37回少年の主張鹿児島県大会最優秀賞  
「恵」  
口之島中学校 1 年 永吉美悠

私が住む島には、医師が常駐していません。診療所に看護師さんが一名いるだけです。病気が怪我で医師の診察を受けるには、月に 2 回の巡回診療を待つか、テレビ電話等を活用しての診察となります。万が一、命に関わるような状況であれば、鹿児島本土から飛んでくる救急ヘリで搬送されます。私自身も、怪我に関する苦い思い出があります。二年前、転んで肘を強く打ったのですが、診療所にはレントゲン設備がないため、症状についての詳しいことは結局わからずじまい。しかし、何日経ってもなかなか痛みが収まらないため、鹿児島市内の病院でレントゲンをとると、実は骨折していたということがわかりました。この時「離島における医療は大変なことが多い。」と改めて実感しました。しかし、あるできごとが、このような私の考えに大きな変化をもたらします。それは職場体験でのごとです。私の夢は医師になることですが、医師に関する知識が十分とはまだいえません。そこで、医療に関する知識を少しでも増やし、将来に生かしたいと思い、診療所で体験することを希望しました。お世話になった診療所の看護師さんは、十年以上島の医療を一手に支え続けており、私はもちろん、島中の人々が頼りにしています。体験当日、午前中は仕事内容や道具の説明などが中心でしたが、この時の看護師さんの一言が私の胸に引っかかりました。「昔と比べると、医療環境はずっと恵まれているんだよ。」確かに、昔

より恵まれているのかもしれない。しかし、恵まれていると本当に言えるのだろうか。二年前の苦い思い出のある私にとって、すんなりとは納得することのできない言葉でした。午後からは、包括訪問という、高齢者の方々の家を一軒ずつ訪ねる活動につれて行ってもらいました。訪ねた 4 軒目の家では、まず血圧を測った後、マッサージや簡単な運動をします。手際よく訪問活動を続ける看護師さんの様子を観察しているうちに、私はあることに気がつきました。それは、どの家でも会話の時間がとても長いということです。「畑でジャガイモがどっさいとれたがよ。」「うああ、わっぜ太かねえ。」体調面の話にとどまらず、畑の話、昨夜の晩ご飯の話、相撲の話、家族の話など相手に合わせて会話の内容を自在に変えながら、長い時間をかけてとても楽しそうに語り合います。このことに気がついたとき、私は正直、話をしてばかりだと不思議に思いました。すると、私の気持ちを察したかのように、これこそが一番大事なのだと看護師さんが私に語りかけてきました。「地域医療は、人と人のつながりなんだよ。」看護師さんやおじいちゃん、おばあちゃんたちの笑顔は医療の別の一面を私に気づかせてくれました。地域の人々の協力があればどこであってでも誰もが健康で、幸せに暮らせること。人の温かさがあれば、機械ばかりに頼らずとも素晴らしい医療が生まれること。そして、科学技術はこれを手助けするために存在しているに過ぎないこと。最新の技術・機器を駆使して、苦しみや痛みから人々を解放することこそが、医療のあるべき姿だと考えていた私にとって、本当に大きな気づきでした。

「恵」という文字は、「まるく相手を抱き込む心」を表しているそうです。今の私なら、看護師さんの「恵まれている」という言葉の真の意味がわかるような気がします。おかげで、ぼんやりしていた私の夢が、ほんの少しだけ形になりつつあります。そこには、医療施設が十分整っているとはいえない場所で、患者さんと笑顔で語り合っている未来の私があります。

シリーズ——島で暮らす  
十島村の学校で生活して  
「楽しい小宝島での生かつ」  
小宝島分校 2 年 下川 ほの花

○「きらきらしてきれいだなあ。」わたしが小宝島を見て、さいしょに思ったことです。かごしまのいつも見ていた海より色があざやかでした。まるで海と空がいつしよになっているようでした。わたしが小宝島にきたのは、1 年生になる前のことでした。おとうさんから「小宝島にいくことになったよ。」と聞いたとき「ようちえんのおともだちとおべんきょうできなくなるなあ。」ときびしい気持ちになりました。いよいよしゅっぱつの日になりました。みななどにはたくさんの方がきていました。わたしがようちえんのときの先生もきていました。先

生とすこしお話をしました。おじいちゃんとおばあちゃんのないかおを見ると、なみだがポロポロとでてきました。わたしは、小宝島まぶんの 1 年生になりました。1 年生は、わたし一人です。一人のきょうしつは、おともだちがいなかったからつまらなかつたです。でも、二学期や三学期になると、ほかのがく年におともだちもできました。そのほかに、先生がエルモというおにんぎょうをもってきてくれました。おかげでさびしくなくなりました。しまの子どもたちは、一りん車をじてん車のよのりこなしていました。「すごいなあ。わたしも早くのれるようになりたいなあ。」と思いました。～次号へ続く



## 十島村の小・中学校からのメッセージ

悪石島中学校 教諭 鹿倉高行  
悪石島は、十島村にある人口 60 名余りの小さな島です。鹿児島市内や都会ではなかなか見られない景色が魅力の島です。私は、健康維持のため、早朝 5 km から 7 km を走っていますが、走り始めてしばらくすると、見渡す限り果てしなく続く海と、牛が放牧されている草原だけの景色が飛び込んできます。まさに絶景です。この景色を見るたびに、「自分は今、悪石島にいるんだ。」という実感、満足感が体中に込み上げてきます。悪石島小・中学校に赴任して 2 年目になります。私は中学校籍なので、小学生と触れ合うことにも、いつも新鮮な気持ちを味わっています。悪石島は人口も少なく、どの人とも顔見知りです。親しくさせてもらっています。今まで、島民の方からカツオの刺身、トビウオ、大名タケノコ、島らっきょう、サワラの燻製などをいただいたことがあります。どれも絶品で最高です！

また、毎週金曜日の夜は学校で、島民、教職員、観光客や業者の方々が一緒になって、楽しくミニバレーをしています。みんなリラックスして、笑顔でプレーをして、健康維持にもつながっています。

魅力的なのは悪石島だけではありません。昨年の特カラ列島島巡りマラソン大会に参加させてもらい、十島村全島に行く機会がありました。どの島にも絶景があり、ランナーを温かく迎えている島民の方の姿を見ることができました。十島村の島間は、それぞれ約 40 分から 1 時間と距離があり、島間の交流は容易ではありませんが、十島村の人たちは、心でつながっているんだなあと感じました。

## 教師仲間である「あなた」への 私からのメッセージ

トカラ列島は、自然あふれる絶景が多く、とても魅力あふれる島々です。そこでの生活、島民との交流は、今後の教員人生に生かしていけると思っています。私も思いっきり悪石島ライフを堪能している毎日です。

